

県立高等学校教育課程課題研究（産業教育（商業））

本研究では、平成30年に告示された学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現を起点に、単元を見通した授業展開や評価方法を計画・実践・検証してきた。

今年度は、これまでの研究成果を効果的に組み合わせた授業実践を展開した。また、商業科がリーダーシップを執り、普通科と連携し、教科横断的な取組を実践している先行事例を報告する。加えて、授業改善の一考察として、授業者、参観者、生徒がそれぞれの視点から授業を振り返り、学び合う教職員集団や、自走する学習者を育成するための方策を提案する。

<検索用キーワード> 商業科 ルーブリック 主体的 対話的 主体的に学習に取り組む態度
教科横断的 PBL 連携 授業改善 評価改善 グループワーク

運営委員長

愛知県立一宮商業高等学校長

朝日 真二（令和5年度）

運営副委員長

愛知県立岡崎商業高等学校教頭

竹内 道治（令和5年度）

運営委員

高等学校教育課指導主事
総合教育センター企画研修室長

浅井 識智（令和5年度）
西脇 正和（令和5年度主務者）

研究員

愛知県立中川青和高等学校教諭
愛知県立犬山高等学校教諭
愛知県立一宮商業高等学校教諭
愛知県立岡崎商業高等学校教諭
愛知県立豊橋商業高等学校教諭

後藤 修志（令和5年度）
佐野 佳史（令和5年度）
中村 雅計（令和5年度）
岡本 仁絵（令和5年度）
安藤 駿（令和5年度）

1 はじめに

平成30年3月に告示された高等学校学習指導要領の改訂では、変化する時代に求められる資質・能力の育成を目指し「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められた。商業科ではその実現に向け、単元構想を計画・実践・検証してきた。令和3年8月に『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」が発行されたことを受け、「主体的に学習に取り組む態度」を単元で見取るための研究へと移行した。その他、各校における課題を解決するための方策を提案することに主眼を置き、タブレット端末の活用事例やルーブリック作成ツール、ショートケースを用いた特色ある授業展開や、その評価方法などを研究している。

令和5年度は、先述した研究の集大成として、過去の研究成果を適切に取り入れた「授業のまとめり（単元）を意識した学習指導案（以後、学習指導案）」と「ワークシート」を作成し、授業実践を行った。また、新たな取組として「授業者・参観者・生徒で築くオープン化した授業と授業改善の一考察」を主題として研究した。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教員同士が学び合い、学校

全体で授業の質を向上させるための提案である。加えて、商業科が中心となって、校内をリードするPBL（Project Based Learning）を取り入れた教科横断的な授業実践を先行事例として報告し、新しい視点を広く共有したい。

今年度の研究のねらいは「やってみたい・やってみよう」をテーマに、先生方が本研究を参考に、学校の実態や実情に合わせて挑戦していただくことにある。本発表の成果が各学校の「授業改善」や「評価改善」につながることを期待したい。

2 研究の目的

産業教育の商業科におけるこれまでの研究成果を基に、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じた指導方法を研究する。また、これからの時代に求められる資質・能力を育成する視点で授業改善を行い、そこで得られた知見を学校へ還元する。

3 研究の方法

研究員は、学習指導案を作成し、作成した教材を用いて所属校にて授業実践を行う。計画するに当たり、①学習指導マネジメントシートと連動性をもたせること、②ルーブリックをワークシートに取り入れること、③評価を生徒に明示し、還元することで主体的に学習に取り組む態度を育むことを共通事項とした。また、授業における小さなActionを契機とした学校全体の授業力向上を目指し、授業をオープン化する。そのツールとして、①手引き、②授業デザインシートを開発・実践・検証する。授業者・参観者・生徒それぞれの視点から授業を捉え、生徒が自らの学習を調整したり、粘り強い取組を行ったりしようとすることや、授業者・参観者が自身の授業を振り返り、授業改善や評価改善をすることの一助とする。加えて、PBLを取り入れた授業を、導入から実践まで、各校の実態や実情に合わせて計画できるようにすることをねらいとして、教科横断的かつ課題解決型の先進的な授業実践を報告する。

4 研究の内容

(1) 科目「ビジネス基礎」における指導方法と評価

－事前課題の実施と教室内討議、グループワークを取り入れた授業－

生徒の経験や身近な商品やサービスを題材にすること、自分たちの使っている言葉を改めて定義してみることで、同質の集団以外の人の話を聞くことを事前課題及び授業内容とすることで、主体的な取組を促し、教室内討議やグループワークを経て共通理解を深めることができる授業展開を計画し、実践した。

ア ワークシート内にてルーブリックを生徒に明示

グループワークを円滑に行うため、ワークシート内でルーブリックを生徒に示し、生徒自身がどう学ぶべきかを事前学習の時点で整理させた。目的や目標を明確化してグループワークに臨むための手助けになった（資料1）。

【資料1 ルーブリックの抜粋】




評価項目	評価基準		
	十分に満足できる 5点	満足できる 3点	努力を要する 1点
1 思考力	テーマに沿って情報を分析し物事を複数の側面から深く考えることができる	テーマに沿って情報を分析し物事を一つの側面から考えることができる	情報を分析することができる
2 協調性・発信力	話しやすい状況を作ること意識し他者の意見を踏まえた上で自分の意見を述べるすることができる	話しやすい状況を作ること意識し自分の意見を述べるすることができる	自分の意見をまとめることができる

イ 授業実践の主な工夫点

(ア) ワークシートにピクトグラムを明示

ワークシート内に事前課題を記載しても、授業内での取組か、家庭学習での取組かを判断できないこともある。そこで、取組方法が一目で理解できるように、ピクトグラム(資料2)を示し、スムーズに学習活動ができるようにした。実践校は日本語を母国語としない生徒もいるため、このような生徒が理解できるようにすることもねらいとした。

【資料2 ピクトグラム抜粋】

	事前課題 (家庭学習)
	クラスで考えをまとめる
	グループで話し合う

(イ) ワークシートの自由記述に罫線を設定

意見や考えを表現することが苦手な生徒は多い。特に、言語化し記述する能力は社会人として求められる能力であるため、その手助けとして、罫線を設定した(資料3)。

【資料3 記述欄】

【今日の授業で感じたことを書きましょう (Write down what you felt in class today.)】

																							20
																							40
																							60
																							80
																							100
																							120
																							140
																							160
																							180

罫線を設けることにより、「丁寧に書かなければいけない」という意識や「一定の文字数を書かなければいけない」という意識をもち、熱心に取り組んだ。

ウ 成果と課題

事前課題については、質に大きな差が生じた。特に、半数が日本語を母国語としない生徒で構成されている学級では、教室内地議、グループワークのいずれも発言者に偏りがみられた。記述内容についても日本語での記述は時間が不足し、単語や英語での記述などさまざまな記述が見られ、更なる工夫が必要である。

科目「ビジネス基礎」の位置付けは原則履修であり、商業科目の基礎・基本が集約されている。また、ケースメソッド等の手法を用いて探究的な学習が求められているため、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法と評価方法のいっそうの理解が必要であると感じた。

(2) 科目「簿記」における指導方法と評価

—グループワークを取り入れた協働的学習による深い学びの実現に向けて—

他者の考えを受け入れることでより深い学びにつながるという考えの下、単元に個人で学習する時間とグループで学習する時間を設定し、対話を活用しながら問題解決に取り組む授業展開を計画し、実践した。

ア ワークシート内にてループリックを生徒に明示

ワークシート内でループリックを示すことで、生徒自身が、目標をもって自らの学習を調整する行動をとることを期待した(資料4)。

【資料4 ループリックの抜粋】

評価	A	B	C
状況	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	8桁精算表の作成についての留意点に気付き、8桁精算表を適切に作成するために粘り強く取り組もうとしているとともに、留意点を具体的に指摘し、実務での8桁精算表の作成について改善するための手だてを考察しようとしている。	8桁精算表の作成についての留意点に気付き、8桁精算表を適切に作成するために粘り強く取り組もうとしている。	8桁精算表の作成についての留意点の把握が不十分であり、適切に作成するために粘り強く取り組む態度が見られない。

評価の具体例については、科目担当者間で共有し、見取りや評価に格差が生じないように検討・調整した。

イ 授業実践の主な工夫点

(7) ワークシートの形式の工夫

同じ問いを、穴埋め式(資料5)と記述式(資料6)の両方で回答させることにより、主体的に学習に取り組む態度を評価する。単元の前半部分では、穴埋め式で知識を問い、後半部分では文章で記述することで思考や表現を通して知識を定着させることができると考えた。

【資料5 ワークシート①】

8桁精算表を作成する目的は、損益計算書、貸借対照表等、(①)を作成するための確認及び(②)をするためである。また、決算整理後による利益の(③)が可能である。さらに、6桁精算表に加え(ア)記入欄があることにより、決算手続きが(イ)できるのが利点である。
しかし、損益計算書、貸借対照表欄に記入する際、(④)が起きやすい。また、5要素が判断できないと、誤った欄に記入されることがある。これらにより、(⑤)が損益計算書、貸借対照表欄で一致しないことがある。

語群：

財務諸表	主要簿	完成	当期純損益	試算表
不正	準備	損益勘定	試算	誤記入

【資料6 ワークシート②】

あなたの勤務している会社が決算となり、損益計算書・貸借対照表を作成することになった。あなたは、経理事務担当として損益計算書・貸借対照表の作成にあたり、確認のために8桁精算表の作成を依頼された。そこで、あなたは8桁精算表を作成する上で(1)どのような点に留意すべきか記入しなさい。また、(2)その留意点を改善するためにはどのようにするか記入しなさい。
※以前実施したワークシート①を思い出しながら、考慮すること。
※決算仕訳はすべて合っていると仮定するため、(決算の仕訳をしっかりと行う等)の解答は×とします。

(1)	
(2)	

(4) Microsoft Teams の Reflect 機能の活用

Reflect 機能を使い、生徒に自らの学習活動について自己評価をさせた(写真1)。生徒の作業は、5段階の感情マークから選択するだけであるため、毎時間の理解度を図るのに最適であり、生徒のつまずきにすぐに対応することができる。生徒は、自身の理解度を振り返り、指導者は全体の理解度を自身の授業改善につなげることをねらいとした。



【写真1 Reflect 機能の結果】

ウ 成果と課題

生徒及び参観者に対し、授業が深い学びにつながっていたかなどについてアンケートを実施した。結果として、生徒は普段の授業より主体的に取り組む、参観者からも概ね深い学びになっているという評価を得られた。単元の中で協働的に活動することが、より主体的で深い学びにつながる事が分かった。評価方法や内容の精選などを改善しながら、取り組んでいきたい。

科目「簿記」は、基礎的科目であり1年生で履修することが多い。また、知識や技術に偏重し、解き方指導になる傾向も強いいため、生徒の活動に目を向け、主体的・対話的で深い学びを実現し、知識の定着につなげていきたい。

(3) 科目「財務会計Ⅰ」における指導方法と評価

－EDINETを活用した授業実践、主体性と思考力を育む工夫と評価の充実－

「興味をもてる分野」であれば主体的に取り組めるのではないかと、「可視化したデータ」を利用すれば思考・判断・表現しやすいのではないかと、という二つの仮説を立てた。より活動的な授業展開になるように計画し、実践した。

ア ワークシート内にてルーブリックを生徒に明示

プレゼンテーションなど、評価を数値化することが難しい取組も、生徒に評価基準を示すことによって発表内容や資料作成などに工夫が見られるようになる(次ページ資料7)。また、数値化することで記録に残す評価とすることも可能になる。

【資料7 ルーブリックの抜粋】

評価項目	評価基準		
	十分に満足できる	満足できる	努力を要する
1 内容	テーマに沿った論点を明確にし、興味深い内容を発表することができた	テーマに沿った発表をすることができた	テーマと関連性がある発表をすることができた
2 構成	全体を通して、筋道を立てた順序で明瞭に話すことができた	全体を通して、筋道を立てた順序で話すことができた	全体を通して、一部筋道を立てて話すことができた
3 表現力	身振り手振りを効果的に使い、語りかけるように話すことができた	聞き手を確認しながら、伝わるように話すことができた	原稿を見ながら、伝わるように話すことができた
4 スライド	図表、グラフなどを効果的に使用し、聞き手が内容を理解しやすいような工夫をすることができた	文字のサイズや色などを工夫し、図表、グラフなどを取り入れることができた	聞き手の注意を引くような工夫をすることができた

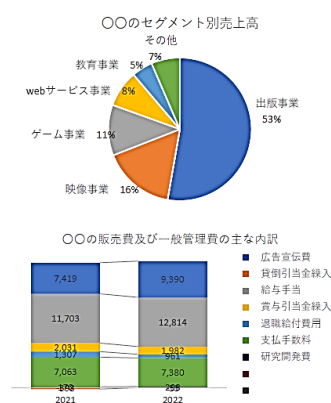
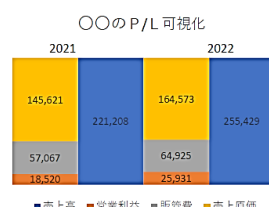
イ 授業実践の主な工夫点

(7) EDINETにより得たデータを可視化

配付データとして、調査した財務情報を数値として入力することで、入力した財務情報が可視化されていくエクセルシートを利用させた（写真2）。

興味・関心のある企業を選択させ、実際の財務情報の値を可視化することで、学びを実社会と結び付けることができた。一つの企業を例題とし、一斉に取り組むことで、自ら活動できるように工夫した。

	2021	2022
売上高	221,208	255,429
売上原価	145,621	164,573
営業利益	57,067	64,925
営業利益	18,520	25,931
セグメント別売上高	2022	
出版事業	139,990	
映像事業	43,289	
ゲーム事業	30,351	
webサービス事業	22,063	
教育事業	12,475	
その他	17,199	
※セグメント間内部取引を含む		
販売費及び一般管理費	2021	2022
広告宣伝費	7,419	9,390
貸倒引当金繰入	-398	-53
給与手当	11,703	12,814
賞与引当金繰入	2,031	1,982
退職給付費用	1,307	961
支払手数料	7,063	7,380
研究開発費	170	288



【写真2 財務情報入力後画像】

(4) 全員に発表機会を設定

ビジネスに必要とされるコミュニケーション能力を教科指導の中で育成するため、全ての班が発表できる機会を設定した（写真3）。

各班でワークシート内のルーブリック（資料7）を踏まえ、役割分担から内容や構成の精選、スライドや台本などの作成、発表練習に至るまで主体的に取り組む姿勢が見られた。



【写真3 発表会の様子】

ウ 成果と課題

生徒は、想定を超えて主体的に取り組み、数値を根拠にしながらビジネスモデルの仮説を立てることができた。実践を終えて、主体性と思考力を育むためには、協働する場面の設定や、学ぶ楽しさを実感できる授業展開が重要であると再認識した。

学習状況評価は、計画的に実施するとともに、評価基準を生徒に明示し、実践と振り返りを繰り返すことが必要である。評価実施後に、情報共有しながら評価の充実に向けた共通理解を図っていかねばならないと感じた。

(4) 地域創生ビジネス5領域の探究学習について

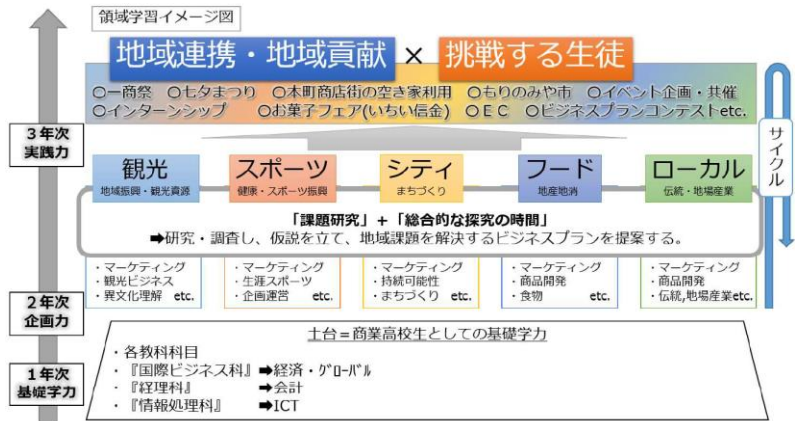
一教科横断的な学びの実現に向けて

地域を題材とした探究的な学習を普通教科と商業科が連携しながら進める「普商連携」を軸とする教育課程を編成した。編成に当たり「地域における活動を通じた探究的な学び」を実現するためには、PBLが有効な手法であると考え、地域の課題解決や、地域を活性化するプロジェクトに向かって取り組む学習を取り入れた。1年目は学年全体で取り組み、2年目である本年度は、それぞれの領域に分かれて取り組んでいる。取組を実現するための計画から導入までを今後の課題も含めて報告する。

ア 全体計画イメージ

3年間の取組をイメージ化した（写真4）。地域に根ざした学校を目指すに当たり、準備会を立ち上げ、挑戦する生徒を育成する教育課程の編成を実現するための検討を重ねた。

準備会では、地域を題材とした探究的な学習を推進することとし、教科横断的・協働的に地域課題を解決する取組をするに当たり、普通教科と商業科が連携する「普商連携」を軸とした。



【写真4 計画段階イメージ図】

イ 2年次の計画

各学年での計画を明確にし、教科横断的なつながりと学年間のつながりをもたせている。1年次は、基礎学力の獲得と探究学習への動機付けを中心に、各領域の基礎と「地域振興につながる企画の立案」といった、正解のない課題でプレゼンテーションを行うなど探究活動の基礎を学ばせた。

2年次は、興味・関心に従って5つの領域から一つを選び、それぞれの領域の視点で探究していくことに重点を置いている（写真5）。



【写真5 2年次の計画】

ウ 成果と課題

この取組では、大きく2つの成果が見られた。一つは、教科横断的な活動が、各教科の「見方・考え方」を働かせながら深い学びをもたらすことである。もう一つは、地域と連携したプロジェクト活動を計画することは、生徒の学習意欲の向上や探究学習の目標設定につながり、生徒のみならず教員にもよい刺激を与えていることである。地域に根差した「主体的・対話的で深い学び」を商業科がリードしながら、普通教科が連携することで、探究学習としての深みを生み出すと考えられる。

(5) 授業者・参観者・生徒で築く、オープン化した授業と授業改善の一考察

－主体的・対話的で深い学びの実現に向けたOne Action－

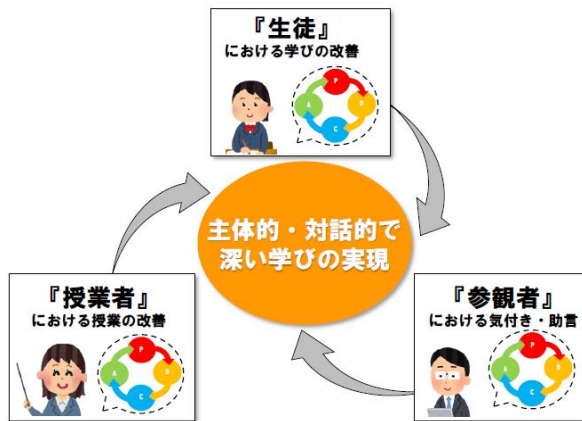
授業改善の取組を進める一つの方法として、授業のオープン化（授業公開）が挙げられる。授業公開は、教員同士の情報共有を図ることができるのと同時に、授業者・参観者・生徒という3者それぞれの視点からの気づきを得ることができる。一つの授業を、それぞれの立ち位置から振り返り、自身の指導改善や学習改善につなげるための方策を実践した。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた One Action（手引き）の作成

授業参観を3者の視点から行うことで、各々が授業改善や学習改善につなげるイメージを表してい

る（資料8）。「主体的・対話的で深い学び」を実現するに当たり、「どのように学ぶか」という「手だて」にばかり目がいきがちになってしまうことを振り返り、授業改善するための提案である。

【資料8 手引き抜粋】



イ 授業デザインシートの作成

公開授業を授業改善に生かすため、計画（資料9）から振り返り（資料10）まで1枚のシートにまとめる。

【資料9 授業前】

授業デザインシート - 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたOneAction -

【授業前】 授業計画			
日時	令和5年9月19日（火）第3時限	授業者	〇〇 〇〇
科目	ソフトウェア活用（SQLの活用）	クラス	2年C組（教室）
タイミング	前半・（中盤）・後半	20分間	開始から終了まで

教師の具体的な手だて（One Action）		実現したい生徒の姿	
1	① Teamsによりブックを共有し協働作業を行わせる ② 班別協働を行わせる	主 対 深	協働して課題解決することにより、ビジネスに主体的・協働的に取り組む態度を身に付ける
2	① SQLをエラーメッセージから修正させる ② 分散型データベースのデータの整合性を考えさせる	主 対 深	知識・技術を活用することにより、ビジネスに必要な資質・能力を身に付ける

【資料10 授業後】

【授業後】 振り返り
 <生徒アンケート結果> ※必要に応じて、割合を表示したり、グラフを貼り付けたりする

項目	結果	割合	グラフ	
1	<ul style="list-style-type: none"> ● できた 30% ● ややできた 7% ● あまりできなかった 1% ● できなかった 1% 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ● できた 26% ● ややできた 9% ● あまりできなかった 3% ● できなかった 1% 			
その他	意見を表示			
<参観者アンケート結果>				
1	（できていなかった）0	（ややできていなかった）1	（ややできていた）5	（できていた）4
2	（できていなかった）0	（ややできていなかった）2	（ややできていた）4	（できていた）4
改善点等	意見を表示			

ウ 成果と課題

容易に取り組むことができる工夫として、手引き内に「主体的・対話的で深い学びガイド」を入れた。生徒の目指す姿であるピクトグラムと、それを実現するための具体的な手だてを紐づけ、授業デザインシート作成の補助や、「主体的・対話的で深い学び」の実現にポイントを絞った授業展開に焦点を当てた。授業参観を授業者・参観者が自身の授業改善に役立てたり、生徒が学習改善に役立てたりすることが、学校全体の学力向上につながる。今後は、この取組を広く周知・実践していくことが課題である。

5 研究のまとめと今後の課題

「主体的・対話的で深い学び」は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して場面設定する必要がある。また、場面設定や手だてが適切であったかを振り返り、授業を受けた生徒が「何ができるようになったか」を基準に、授業改善をしていかなければならない。「主体的・対話的で深い学び」の主語は生徒である。今回実践した授業者と学習者との意識の相違をなくすために、授業を俯瞰して見る立場である参観者からの助言は授業改善に有効であった。

今回の発表会では、授業実践・先進的な取組の報告・授業改善への提案と大きく3つの構成とした。オンライン開催であったこともあり、地域を超えた多くの方に参加していただいた（写真6）。また、短い時間設定ではあったが、質疑応答も盛況であった。今後は、研究協議などを設定し、研究者と参加者がテーマをもって対話できる機会をつくることで、よりいっそう研究に対する広い視点からの検証や情報共有ができることが見込まれると感じた。



【写真6 当日の様子】

教科横断的な学び、探究的な学びの取組は、組織的に計画していく必要がある。今回の発表を参考に、商業科がリーダーシップを執り、各教科の見方・考え方が働くように工夫し、各教科の指導内容の特徴を生かしながら、学びの連動性をもたせたい。黎明期だからこそ、部分的であっても失敗を恐れずに挑戦し続けていきたい。

参考文献等

- ・ 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 商業編、2018
https://www.mext.go.jp/content/1407073_15_1_1_2.pdf
- ・ 文部科学省 国立教育政策研究所
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf
- ・ 愛知県総合教育センター 商業科の研究 2022-2023
<https://apec.aichi-c.ed.jp/kyouka/shougyo/index.htm>
- ・ 金融庁 金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム (EDINET)
<https://disclosure2.edinet-fsa.go.jp/>
- ・ プロジェクトベースの学習に関する教師向けガイド
<https://www.phf.org.uk/wp-content/uploads/2014/10/Teachers-Guide-to-Project-based-Learning.pdf>
- ・ 独立行政法人教職員支援機構 ピクトグラム一覧
<https://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/pictogram.html>